

J. S. ミル

2016 年追試

問 8 自己決定権という考え方の一つの基礎となったミルの思想の説明として最も
適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

8

- ① 他者に危害を加えず，かつ家族の承認も得られることを行う限り，人は何
を行うのも自由であり，その行為に反する強制や拘束などを誰も行ってはな
らないとする他者危害原則を主張した。
- ② 社会全体の幸福の増進を目指す功利主義の思想を基礎に，各人が個性を伸
ばすことが社会全体の発展につながると考え，そのために個人の自由を最大
限保障することが重要であると主張した。
- ③ 自己決定の自由を最大限保障するために，大人であるか子どもであるか，
判断能力を有するか否かに関係なく，あらゆる人間について，各自の身体や
精神に関する本人の決定を尊重しなければならないと主張した。
- ④ 各自の自己決定権を主張する一方，幸福の最大化を目指す功利主義の立場
から，将来的な不利益や不幸につながると推測される行動を取る者に対して
は，他者が積極的に強制や干渉を行うべきだと主張した。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 8	8	②	3

2015 年本試

問 5 正義の捉え方を述べた次の文章を読み、文章中の **a** ～ **c** に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 **5**

正義は、古代ギリシアにおいて知恵や **a** とならぶ四元徳の一つに数えられ、よき政治秩序に必須とされた。しかし、正義とはその時々^の強者の利益にすぎないという考え方もまた、すでに古代ギリシアに登場している。今日の民主社会においても、民主主義が、多数決による支配を安易に意味するならば、正義とは、多数派の意見の別名となりかねない。19 世紀のミルは、**b** において、またミルに影響を与えたトクヴィルは、『アメリカのデモクラシー』において、画一的な世論が反対意見を封殺する「多数派の専制」について論じている。こうした見方は、大衆社会が全体主義の温床となったと捉える 20 世紀のアーレントにも受け継がれた。他方で、正義を単なる多数派の意見に還元しないためにも、正義を普遍的原理として理論化する試みがなされている。例えば、ロールズは、**c** の考えを新たに活かしつつ、基本的な財の分配をめぐる平等の原理として正義を捉え直し、現代思想に大きな影響を与えた。

- ① a 友愛 b 『正義論』 c 功利主義
- ② a 友愛 b 『正義論』 c 社会契約説
- ③ a 友愛 b 『自由論』 c 功利主義
- ④ a 友愛 b 『自由論』 c 社会契約説
- ⑤ a 節制 b 『正義論』 c 功利主義
- ⑥ a 節制 b 『正義論』 c 社会契約説
- ⑦ a 節制 b 『自由論』 c 功利主義
- ⑧ a 節制 b 『自由論』 c 社会契約説

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 5	5	⑧	3

2014 年追試

問 3 次の文章は、ミルの思想について説明したものである。 ・ に入る語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

ミルは、ベンサム思想を受け継ぎながらも、 の立場を取った。それを象徴する彼の言葉「満足した豚であるよりも不満足な人間のほうがよく、満足した愚か者であるよりは不満足なソクラテスのほうがよい」は、 の重要性を表現したものである。

- ① a 質的功利主義 b 創造的知性
- ② a 質的功利主義 b 魂への配慮
- ③ a 質的功利主義 b 精神的快樂
- ④ a 社会進化論 b 創造的知性
- ⑤ a 社会進化論 b 魂への配慮
- ⑥ a 社会進化論 b 精神的快樂

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 3	31	③	2

2013 年本試

問 5 ミルが個性の発展を擁護した理由についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

34

- ① 個性の自由な発展は、自我の安定のために有益であり、それを社会が認めないと、無意識の欲望が抑圧されて、自我の不安を覚える人々が多くなってしまう。
- ② 個性の自由な発展は、個人の幸福にとって不可欠だけではなく、社会全体が進歩していくためにも有益であり、他人に害を与えない限り、それを制限してはならない。
- ③ 個性の自由な発展は、人間が生まれながらに持っている自然権の一つであり、それを社会が抑圧しようとするのは、いかなる理由をもってしても絶対に許されない。
- ④ 個性の自由な発展は、人間が神から与えられた才能を开花させることであり、それを抑圧しようとするのは、神を信じることのできない人間の^{ごうまん}傲慢に基づいている。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 5	34	②	3

2011 年追試

問 4 19 世紀を通じて、資本主義社会の発展とともに、歴史の本質は「進歩」であるとする見方は、様々な思想に影響を与えていった。次のア～エはそれぞれ誰^{だれ}の思想であるか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

26

ア 集団生活を規制する国家のあり方の変革は、空想的にではなく科学的に構
想可能であるが、その国家もいずれは不可避免的に滅ぶ。

イ 社会は生物のような有機体であり、政府が介入しない自由な競争を通じ、
適者生存の原理に基づいてよりよい状態へと進化する。

ウ 人間は生来他人を思いやり、社会の幸福のために献身することに喜びを感
じるので、最大多数の最大幸福の実現を追求するようになる。

エ 人間社会を支える知識のあり方も進歩するのであり、観察された現象の間
に法則を確立するような実証的学問こそ、知識の最高の段階である。

- ① ア J. S. ミル イ コント ウ エンゲルス エ สเปนサー
② ア エンゲルス イ J. S. ミル ウ コント エ สเปนサー
③ ア コント イ J. S. ミル ウ สเปนサー エ エンゲルス
④ ア コント イ สเปนサー ウ J. S. ミル エ エンゲルス
⑤ ア エンゲルス イ สเปนサー ウ J. S. ミル エ コント
⑥ ア J. S. ミル イ エンゲルス ウ สเปนサー エ コント
⑦ ア สเปนサー イ エンゲルス ウ コント エ J. S. ミル
⑧ ア สเปนサー イ コント ウ エンゲルス エ J. S. ミル

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 4	26	⑤	3

2010 年本試

問 6 安全な暮らしと個人の自由をうまく両立させる原理に関して，J. S. ミルの次の文章を読み，そこに述べられている考えに即した意見として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

36

文明社会の成員に対し，彼の意志に反して，正当に権力を行使し得る唯一の目的は，他人に対する危害の防止である。……そうする方が彼のためによいだろうとか，彼をもっと幸せにするだろうとか，他の人々の意見によれば，そうすることが賢明であり正しくさえあるからといって，彼になんらかの行動や抑制を強制することは，正当ではあり得ない。

(J. S. ミル『自由論』)

- ① 自動車のシートベルトの着用は，事故が起きたときに本人を守るようになるから，強制してよい。
- ② 健康な若者がお年寄りに席を譲ることは，^{だれ}誰もが認める正しい行為だから，強制してよい。
- ③ 飛行機の離着陸時に携帯電話を使うことは，電子機器に影響を与える可能性があるから，禁止すべきだ。
- ④ クローン人間をつくることは，国際的にも国内的にも世論の強い反対があるから，禁止すべきだ。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 5 問	問 6	36	③	3

2007 年本試

問 1 近代市民社会にも潜んでいる「パターナリズム」や「多数者の専制」の危険を指摘した思想家に、J. S. ミルがいる。彼の主張として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

31

- ① 一般意志への服従を拒む人がいるならば、社会契約を口先だけのものにしないうために、社会全体でその人に契約への服従を強制しなければならない。
- ② 政府が人々の生命、自由、財産に対する権力を濫用する場合には、人々はいつでも、政府から権力を取り返し、新しい政府を樹立することができる。
- ③ 政治制度や文化は、人間の生産活動を支えている生産様式に左右されるのだから、社会の変革には生産様式そのものの変革が伴わなければならない。
- ④ 女性が従属的な地位におかれている状況は、現代社会において見過ごすことのできない現象であり、しかも民主社会の根本原理に反した現象である。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 5 問	問 1	31	④	3

2007年追試

問4 J.S.ミルの考え方として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

24

- ① 人間は誰^{だれ}でも、何らかの形で「尊厳の感覚」をもっている。したがって、「満足した豚であるより、不満足な人間であるほうがよく、満足した馬鹿であるより不満足なソクラテスであるほうがよい」。
- ② 各個人は、社会の利益ではなく自分の利益を追求する。しかし、各個人の「利益を追求してゆくと、かれは、自然に、というよりもむしろ必然的に、その社会にとっていちばん有利なような資本の使い方を選ぶ結果になる」。
- ③ 「自然は人類を苦痛と快樂という、二人の主権者の支配のもとにおいてきた」。このように考える目的は、「理性と法律の手段によって、幸福の構造を生み出す」ことにある。
- ④ 「われわれが無制限に善とみとめうるものとしては、この世界の内にも外にも、ただ善なる意志しか考えられない」。「善なる意志は、人間が幸福であるに値するためにも、不可欠な条件をなしている」。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第4問	問4	24	①	3

2004 年本試

問 6 J. S. ミルに関する説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 35

- ① 快樂に質的な差異を認め、人間の良心や利他的心情を重視するとともに、行為の正・不正の基準を、その行為が自分を含めた関係者の最大の幸福をもたらすかどうかという点に求めた。
- ② 豊かな社会を実現するには、一定のルールのもとで、自己の幸福を求める個々人の自由な活動を最大限に認めることが大切であり、社会は構成員の相互的な愛情や親切心に頼らなくても十分成り立つとした。
- ③ 個々人の幸福追求が社会の最大幸福につながるようにしようと、行為の是非を客観的に判断する方法を提案し、刑罰など外的強制を含め、人々の正しい行為を促す様々な制度的工夫を行った。
- ④ すべての人が幸福になるためには、各自が無秩序に利益追求を行う資本主義社会の仕組みを根本的に改め、経済活動を計画的に行うことによって社会の生産力を発展させ、富を公平に分配する必要があるとした。

問 7 「人の意思に反して権力を行使する唯一の正当な目的は他者への危害の防止である」とする原則に従う判断として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 36

- ① 喫煙は、周囲の人の健康への影響を無視できないから、人の集まるところで制限したり禁止したりすることは正当である。
- ② 病気でもないのに、美容や装飾のために、親からもらった身体を傷つける行為は許すべきではなく、法律で禁止すべきである。
- ③ 自動車事故による死傷者の発生を抑制するために、法律で運転者にシートベルトの着用を強制することは当然である。
- ④ 命を落とすかもしれない危険な冒険に出かけるということは、他の人に害を及ぼさないとしても、国などがそれを妨げることは許される。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第4問	問6	35	①	3
第4問	問7	36	①	3

2003 年本試

問 4 19 世紀以降の西洋の思想家 J. S. ミルの見解として最も適当なものを，次の①～⑥のうちから一つ選べ。

14

- ① 各人の多様な個性の発展は，社会が不断に進歩していくためにも重要であるから，個人の自由に対する社会的制約は，他者に危害が及ぶ場合に限りられるべきである。
- ② 世界の歴史とは，精神が人間の活動を媒介として，自らの本質である自由を自覚し実現していく必然的な進歩の過程である。この過程で自由な人間が次第に増えてくる。
- ③ 近代から現代までの西洋社会を振り返ってみると，文明の進歩は，私たち人類を真に人間らしい状態にではなく，むしろ新たな野蛮状態へ導いたと言わざるをえない。つまり進歩が退歩に逆転したのである。
- ④ 人間の精神は神学的，形而上学的，実証的という三段階を必ず通って進歩する。それに対応して，人間の社会もまた軍事的，法律的，産業的という三段階を通して進歩する。
- ⑤ 有機体の進歩が同質的なものから異質的なものへの変化であることに議論の余地はないが，このような変化は文明全体の歴史のうちにも各国民の歴史のうちにもひとしく見られる。
- ⑥ 停滞する未開社会と進歩する文明社会へと世界を二分し，後者が前者を支配し克服すべきだという従来の考えは西洋中心主義に基づく誤りである。未開社会の野生の思考と文明社会の科学的思考との間に価値の差はない。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 4	14	①	2

2002 年本試

問 7 ヘーゲル， J . S . ミル， マズローの思想を説明する記述として最も適当なものを， 次のア～エから選び， その組合せを下の①～⑩のうちから一つ選べ。

36

ア 自己実現の欲求という最高次の欲求は， 階層構造をなす生理的欲求， 安全欲求， 所属と愛の欲求， 承認欲求が順次すべて満たされたとき達成される。

イ 画家がキャンバスに描きたいものを描き， そこに自らの才能や思想を見いだすように， 人間は自分の考えを具体化することによって自己を実現する。

ウ 自己実現は， こころの全体性の二つの要素である「意識」と「無意識」とが相互に補償し合うことによって， 達成される。

エ 「満足した豚であるより， 不満足な人間であるほうがよい」のは， 精神的快樂のような高次の快樂の追求が人間の幸福に不可欠な要素だからである。

	ヘーゲル	J . S . ミル	マズロー
①	ア	イ	エ
②	イ	ウ	ア
③	ウ	エ	イ
④	エ	ア	ウ
⑤	ア	ウ	エ
⑥	イ	エ	ア
⑦	ウ	ア	イ
⑧	エ	イ	ウ
⑨	ア	エ	ウ
⑩	ウ	イ	ア

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 7	36	⑥	3

2001 年追試

問 3 「進歩」という観点から人間の歴史を考えた J. S. ミルの思想についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 13

- ① 人類の歴史は、神学的段階、形而上学的段階、実証的段階という知の発展段階に並行して、軍事型社会、法律型社会、産業型社会の順に進歩する。
- ② 生物進化論は社会にも適用可能であり、適者生存の原理によって社会は進化する。
- ③ 個々人の多様な個性の自由な発展こそが社会の進歩をもたらすのであるから、他者に危害を加えない限り、自由の規制はするべきではない。
- ④ 人類の歴史は自由が実現される進歩の過程であり、人間の自由は国家において最高の形で実現される。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 3	13	③	3